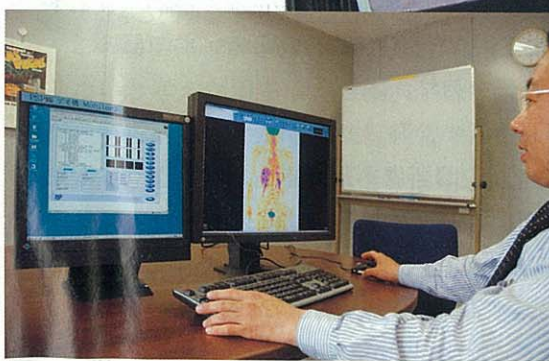


異色の起業家ドクター 病院飛び出し多彩な活動

田中 伸明氏
(株)先端機能画像医療研究センター社長

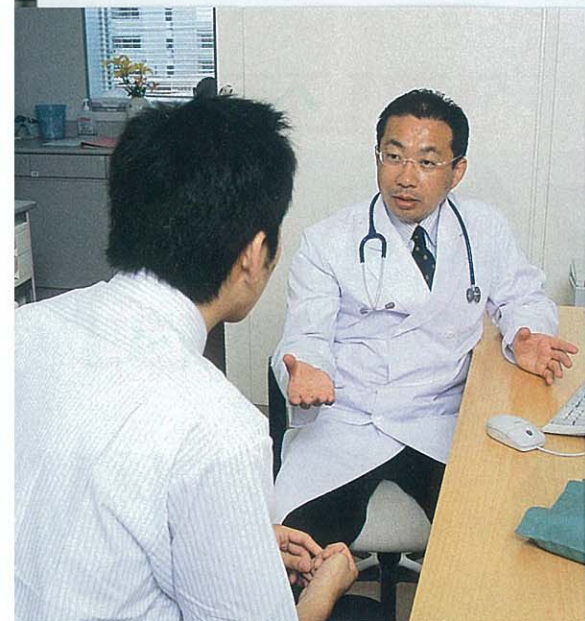


今年4月に設立したCAFI。PET画像の遠隔診断を主な業務とする

● たなか のぶあき氏

- 1960年 熊本県生まれ
- 1987年 鹿児島大学医学部卒業
- 1993年 諏訪中央病院分院リバーサイドホスピタル医局長
- 1997年 マッキンゼー・アンド・カンパニー入社
- 1998年 国立医療・病院管理研究所(現国立保健医療科学院)特別研究員
- 2000年 (株)メディカルクリエイトと(株)メディヴァ設立に参画
- 2002年 竹田綜合病院に入職。福島県立会津大学産学イノベーションセンター客員教授に就任

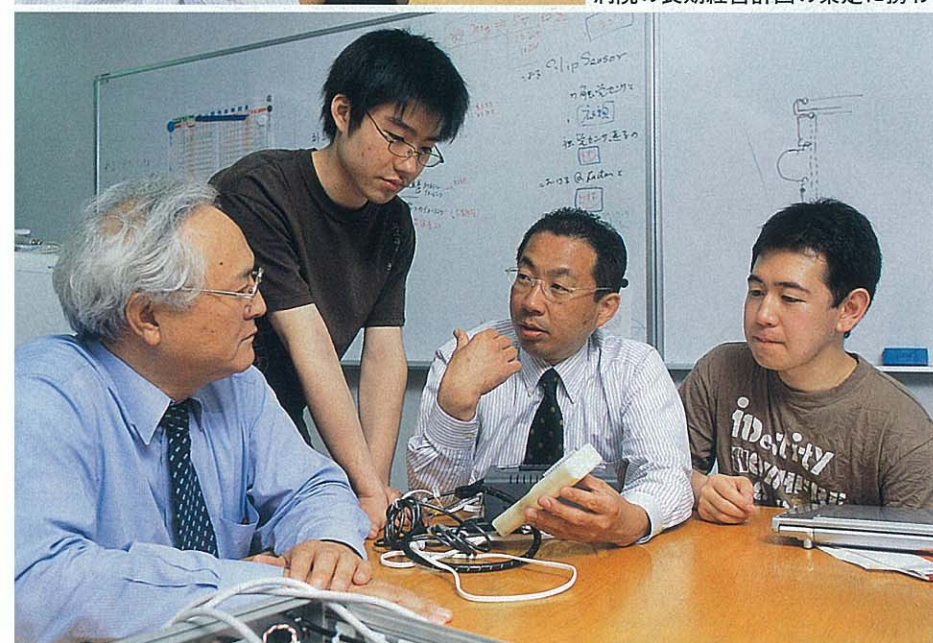
この人の本職はいったい何なのだろうか？
田中伸明氏と出会った人の多くは、こんな第一印象を抱く。医師、ベンチャー企業社長、経営コンサルタント、大学客員教授と様々な顔を持つ。病院以外に活動の場を広げつつ、いま目指しているのは、「地域からの医療改革、社会変革」だという。(文中敬称略)



竹田総合病院山鹿クリニックでの診療は週1日。7月からは理事長室長となり、同病院の長期経営計画の策定に携わる



メディカルクリエイトのオフィス。田中は代表パートナーを務める



医療機器開発を手がける日大工学部の大学発ベンチャー、タウザー研究所。左端が尾股定夫・工学部教授



今年7月、会津若松市に東洋医学を専門とする「鶴城クリニック」を友人の医師と共同で開設

今年4月、東京都港区のあるIT企業のオフィスの一角に医療関連ベンチャー、先端機能画像医療研究センター(CAFI)が産声を上げた。CAFIは医療機関からPET画像の診断を請け負う。PET画像の読影を得意とする医師と契約して、独自に開発したシステムでネットを通じてPET画像をやり取りし、遠隔診断できる体制を整えた。この会社を率いるのが田中伸明だ。

今後、PETを導入する医療機関は急増すると見込まれるが、画像を読影できる医師の数はまだ少ない。CAFIでは遠隔診断のサービスを提供すると同時に、「これからPET画像の読影を習得したい若手医師を募集し、経験豊富な医師と二人

一組で画像診断に当たらせ、人材を育成する」という狙いもあるという。

田中は神経内科を専門とする医師で、現在は福島県会津若松市の竹田総合病院などで週3日診療をこなす。だが、この人物の真骨頂は臨床ではなく“ビジネス”での多彩な活動にある。

福島県郡山市にある日本大学工学部から生まれた大学発ベンチャー、タウザー研究所。触覚センサーをコア技術に乳癌検査装置などを開発するこの会社でも、田中は取締役として経営に加わる。同社の創業者で社長を務める尾股定夫・日大工学部教授は田中について、「業界を問わず幅広い人脈を持ち、医療界や一般企業との架け橋

となってくれる。ヘルスケア業界の技術革新には「欠かせない存在」と評価する。

「田中君のように、医師で二足のわらじを履くという生き方は、そうそう真似できない」と語るのは、田中の大学時代の恩師、丸山征郎・鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授だ。「医療界は秀才ぞろいだが、秀才には目先の目標を必死に達成しようとする習性があり、結局それに振り回され、大局を見失うことが多い。その点彼は、医療の現場と一定の距離を置いているので、しがらみにとらわれず広い視野で将来を見通すことができる」と丸山は話す。

経営に目覚め武者修行

実業の世界や経営に精通する医師は数少ない。そもそも田中が「経営」に興味を持ち始めたのは、長野県の諏訪中央病院の分院、リバーサイドホスピタル東洋医学センター医局長となった32歳のころ。同病院は地域医療に熱心なことで知られているが、1993年当時は、民間病院を買い取り設立した分院を慢性期型の病院に変え、「本院～分院～在宅」という継続医療の流れを構築しようとしていたところだった。田中は、本院と分院の機能分化、在宅医療との連携強化に奔走。その結果、本院の病床稼働率が上がり、業績は向上した。

この成功体験がきっかけで病院経営をもっと学びたいと考えた田中は、日本大学医療管理学講座の特別研究生となり、病院経営や診療報酬について猛勉強。単なる知識の蓄積に満足できず、97年には諏訪中央病院を退職し、大手コンサルティング会社、マッキンゼー・アンド・カンパニーに入社し、米国流のプロの経営指導の現場を目の当たりにする。

その後、国立医療・病院管理研究所（現国立保健医療科学院）の特別研究員を経て、2002年には、用賀アーバンクリニックを立ち上げたことで知られる診療所向けのコンサルティング会社のメディヴァ（東京都世田谷区）と、病院向けコンサルティングのメディカルクリエイト（東京都大田区）の設立に参画する。

田中は国立医療・病院管理研究所にいたころ、

マッキンゼーで知り合った大石佳能子（現メディヴァ代表取締役）や遠山峰輝（現メディカルクリエイト代表パートナー）らとしばしば勉強会を開き、「患者の視点による医療変革」について議論を戦わせた。この勉強会がきっかけで設立したのが、先の2社だった。こういった病院外での活動を通じて、田中は経営手腕を磨き、人脈を広げた。

ヘルスケア産業の育成で町おこし

ところが、2002年に転機が訪れる。当時、田中は私生活で問題を抱えていた。仕事一辺倒だったため、家庭が崩壊寸前だったのだ。

そんな事情を抱えながら、メディカルクリエイトのコンサルタントとして病院の経営指導に当たっていた田中は、出張先のホテルで下血し入院。検査の結果は大腸癌だった。すぐさま手術して事なきを得たが、入院をきっかけに「家庭を再構築しよう」と決意。生活環境を変えるために東京を離れ、会津大学産学イノベーションセンターの客員教授と竹田総合病院という職を確保し、会津若松市に家族で移住した。

新天地に移り2年。会津大学や日大で大学発ベンチャーを育成するほか、会津若松市の委員として地域活性化や健康保健推進にアイデアを提供する。さらに7月には東洋医学、鍼灸治療の専門診療所「鶴城クリニック」を友人の医師と共同で市内に開設した。現在、週の前半を東京、後半を会津若松での仕事に充てている。

会津に移り地域での活動の幅を広げるにつれて、田中は一皮むけた。それまでの関心は医療機関の経営にあったが、医療系ベンチャー育成や健康を軸にした地域活性化など、医療をもっと大きなスケールでとらえて行動するようになったのだ。

「地域医療を充実させるには、地域経済を活性化させて、自治体が医療に十分な予算を割けるようにすることが大切。そのためにも、福島でヘルスケア産業を興し、地方からの医療改革、社会変革を実現させたい。大都市では難しいが、会津若松ならそれが実現できるかもしれない」と今後の抱負を語る田中。これからの腕の見せどころだ。

（沖本 健二 写真：秋元 忍）



ひと

3 ■ ヘルスケアリーダー
(株)先端機能画像医療研究センター
田中 伸明氏

異色の起業家ドクター 病院飛び出し多彩な活動

46 ■ インタビュー
国際医療福祉大学大学院教授
竹内 孝仁氏

介護予防は病気・ケガの予防と活動性向上の両面からアプローチを

連載

79 ■ 韓国病院訪問記
まだ発展途上の病院アメニティー

81 ■ CSのヒント 伸こう福祉会「クロスハート栄・横浜」
職員の特技をケアに生かす

100 ■ IT活用最前線
診療所向けPACSシステム X線画像をパソコンで参照

実務講座

83 ■ 診療所経営相談室
「診療所で退職金制度を導入したいが、どんな方法があるか？」
「診療開始時間を1時間早めたいが、職員の反発が心配」

90 ■ ケースで学ぶ 最新医院開業術 内科系・第三者承継開業編 第1回
承継物件選びのポイント
前医院の患者特性を把握し、自らの専門と照らし合わせて承継

86 ■ 院長のための税務・会計ABC 第32回
窓口収入に注意して税務調査を乗り切る

105 ■ 病院経営セミナー
ノン・カスタマイズ型電子カルテを導入してみよう

9 ■ News・Diary
亜急性期入院医療管理料の届け出は323件、
厚労省が診療報酬改定の疑義解釈、ほか

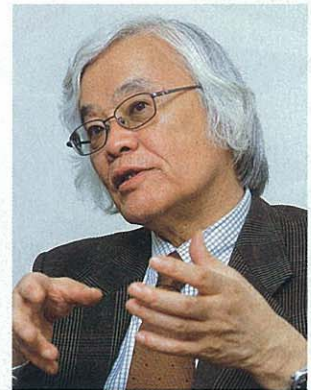
14 ■ 介護ビジネストピックス
メッセージが全居室に風呂・台所が付いた有老ホームの展開を開始、
社保審・介護保険部会が制度見直しの報告書取りまとめ、ほか

17 ■ e定点観測
休診日

113 ■ 情報バック 119 ■ フォーラム



P. 3



P. 46



P. 53

今月の表紙

「寂しい日曜日」

蟹江 杏(かにえ あんず)氏

1978年東京生まれ。97年自由の森学園卒業。2001年渡英。モーレーカレッジにて銅版画を学ぶ。年に一度、銀座あかね画廊での個展やグループ展など精力的に参加。舞台美術や舞台衣装、衣装デザインやCDジャケットなども多数手掛ける。